

万代に、ガードの笑顔輝く

校長 武井 正明

13日のお昼、私は万代シティにいた。カラーガード部の晴れ姿を見るために。

今年も3日間「にいがた総おどり」今年は20周年の節目の年。新潟駅南口、万代、古町の3会場で162チーム、全国から集まった2万人以上の踊り自慢たちが参加する。

私は例によって会場を間違えて、早々に万代に来てしまった。時間があると、私はいつも「バスセンターのそば」に行く。私の中では「バスセンターのカレー」ではないのだ。

この階の売店課は昔、父の担当だった。カレーが新たにメニューに加わったのは私が高校の時だ。この店の脇に父の名札が下がっているのが、嫌で嫌でしようがなかった。



幼い頃、休日出勤の親父にくっついて、弟とよくこの奥の従業員休憩室で、イカ天そばを食べた。だから、ここで食べるチャンスがあると、いつも食べるのは、カレーではなくイカ天そばだった。これを食べると幼かったあの頃が、一瞬で甦ってくる…。

ただこの頃は、てんぷらが「ゲソ天」に変わった。それだけでもう、昔の味にはならない。舌が憶えている。名古屋のカレー作りの名人からレシピを訊いてイチから勉強したんだと、親父は飲むと豪語していたが、そんなに大切にしていたレシピがないというから、この話は眉唾だ。とんでもない長さの行列に加わって、今回は人気のカレーを食べた。

2階には、今はなきレインボータワーがあった。ベストテンの中継で世良公則が「宿無し」を熱唱したのも、この広場だ。人気絶頂の榊原郁恵が来た時は、あまりにも多くの観客で花壇が踏みつぶされて大変だったと聞いた。あれからもう半世紀が経つ…。

親父が一带の自販機のタバコを詰め替えている間、弟とこの限界で暇をつぶしていた。



ぼんやり回想していると、ガードのメンバー10人が揃った。濃ピンクのTシャツ、初めて見た。これはきっと路面に映えるぞ。なかなか風が強く、駅南での演技は大変だったようだ。

上も下も周りもびっしり埋まった大観客を前に、堂々と爽やかに、笑顔で演技切ってくれた。緊張感など微塵も感じさせない。たいした度胸だ。

踊り終わって戻ってきた時もみんな笑顔。「これからお買い物して…」お楽しみもあるんだ。中に少し大人っぽい中学生がいるなどと思ったら、捺希先生だった。

今日も笑顔をありがとう!! 君たちが仲良く、楽しくすごしてくれるのが私の願いです。